

ラジオ放送
＜令和2年10月～12月放送分＞

ON AIR



金光教の声

No.433

もくじ ~ contents

<先生のおはなし>

☎️ 金光教の先生のお話です。

- 僕の方こそ（もう一度聞きたいあの話） *page 1*
福岡県・南八幡教会 松田正一

<あなたへの手紙>

☎️ 悩みや疑問にお答えします。

- 第1回 人付き合いが苦手
／妻が分かってくれない *page 5*
- 第2回 教会は何をしている所？
／他人の言葉に敏感 *page 10*
- 第3回 同性愛者の息子／がんを治療しない妻 *page 14*
- 第4回 金光教の特質／離婚したい *page 18*

<先生&信者さんのおはなし>

☎️ 金光教の先生や信者さんのお話です。

- ふっと浮かんできた言葉（信心ライブ） *page 22*
- 神様がさせてくださる（信心ライブ） *page 27*
- キセキじゃない *page 31*
三重県・松阪新町教会 水野照雄
- あなた任せではいかん！（信心ライブ） *page 36*
- 分かろうとしてくれたから *page 40*
- 窓の向こうから *page 44*
兵庫県・阪急塚口教会 古瀬真一
- 素直な改まり（信心ライブ） *page 48*
- ゆるやかに、伸びやかに（もう一度聞きたいあの話） *page 52*
広島県・吉舎教会 井上睦弘

《もう一度聞きたいあの話》

「僕の方こそ」

福岡県・南八幡教会 みなみや はた
松田正一 まつだしやういち

11月27日、北風の吹く寒い日でした。私は仕事で大阪に出掛けて留守にしていたわが家での出来事です。

早めに夕食を終えたわが家では、塾に行っている末の息子の分を残して後片付けをしています。どこかで救急車のサイレンの音が聞こえていました。毎日のように聞く、さほど珍しくないその音に、わが家の誰もが無関心になっていました。まさかその救急車にわが子が虫の息で乗せられているなんて、誰が想像できたでしょう。

交通事故の知らせは、わが家の空気を一変させました。現場に駆け付けた家内は、救急車の去った後にグシャグシャになったわが子の自転車を見付け、無我夢中で救急車の後を追いました。連絡を受けた病院では、帰り支度をしていた専門の医師たちが子どもを待ち受けてくれました。手術室の前で、家内は不安といらだちの時間を過ごしました。しばらくして、医師から知らされたことは、子どもは頭を強く打っており、ひだりだいたいこつ左大腿骨折、みぞこつ肋骨7本骨折、さらに肺に穴が空いて危険な状態にあって、今夜が峠であるということでした。間もなくして、大阪にいた私にこの知らせが届きました。しかし、北九州から電話で知らされる内容は要領を得ず、頭は大丈夫だと言ったかと思うと、意識が

無いと言ったり、様子がはっきりしないだけに
事の重大さだけがずっしりと伝わってきた。
た。「どうしてこんなことになったのか。子ど

もは何をしていたのか。もう駄目かもしれない。
いや、そんなことはない」など、意味のない言
葉が後を立たずに湧いてくるのをどうすること
もできませんでした。

私は、子どもの容態が分からないまま、夜行
列車に飛び乗ったのです。親として何もしてや
ることのできないもどかしさを感じながら、ひ
たすら神様に祈るしかありませんでした。私は、
夜汽車の中で、必死に冷静になろうとしていま
した。

その頃、北九州の病院で、子どもは最も危険
な状態にありました。午前0時、「家族の方を

呼んでください」と医師より告げられた時、家
内は全身の血の気が引いていくのを感じたと言
います。

午前6時、悪夢のような一夜が明け、私は、
駅からタクシーで病院に急ぎました。既にもう
白い布が掛けられているのでは：そんな予感が
私を襲いました。この現実から逃げ出したいよ
うな思いに駆られながら、車は病院に着きまし
た。集中治療室の前でうな垂れている家内を見
付けると同時に、中から数人の医師たちが出て
きました。「お父さんですか。よかったですね。
もう大丈夫だと思えますよ。意識も戻っていま
すから中に入って声を掛けてあげてください」
という医師の言葉に私は礼を言うとともに、家
にいる母のことを思いました。おそらく一晩中

一睡もせずに祈り続けてくれているに違いない
と思ったからです。近くの公衆電話で、低い疲
れた母の声を聞いた途端に、私は緊張の糸が切
れ、あふれる涙を抑えることができませんでし
た。

一命を取り留めた子どもは、それから毎日、
頭痛と全身打撲の痛みに苦しみながら、片時も
母親の手を離そうとしませんでした。

そんな中で、加害者の大学生が病室を訪れて
きたのです。包帯に包まれた子どもの枕元で、
「ごめんね」と謝った時、苦しい息の下で、「僕
の方こそ」と小学5年生の子どもが答えたので
す。思い掛けない言葉に私はビックリしました。
その大学生も余程うれしかったのでしよう。彼
の目から涙がこぼれていました。誰が教えたわ

けでもない。考えて言ったわけでもない。耐え
られない程の痛みの中で、相手をいたわる優し
い心に誰もが感動しました。この時、私は、わ
が子の中に神様を見たのです。その光景はいつ
までも私の心に焼き付いて離れませんでした。

「人間は皆、おかげの中に生かされて生きて
いる。人間は、おかげの中に生まれ、おかげの
中で生活をし、おかげの中に死んでいくのであ
る」という金光教祖の言葉が浮かんできました。
相手を責めることも、恨むこともしない純粹な
子どもの心が、私に大切なことを教えてくれた
のです。それは、どのような状況の中でも、お
かげの中で生かされている命を頂いているとい
うことです。親でもない、医者でもない、神様
がわが子を生かしてくださり、育ててくださっ

ていたのです。人は、「運が強い」とか、「た

くましい生命力」とか言いますが、親も医者も
手の届かない大きな働きによって生かされてき
たのです。まさに神様から与えられた命の働き
によって、子どもは日を追うごとに目覚ましい
回復を見せてくれました。2カ月ぶりにわが家
へ帰ってきた時のことや、松葉杖について初め
て教室に入った時クラスメートが拍手で迎えて
くれたことなど、日一日と快方に向かう姿に、
改めて生かされている命の証のように私には思
えました。

あれから1年の歳月が経ちました。今では、
何事もなかったかのように子どもは元気に跳び
はねています。しかし、子どもの額に残された
1センチ程の傷跡が、私にいつもあの時のこと

を思い出させるのです。

わが身の苦しみの中にも、相手を思う神様の
心を持つ子どもはまさしく神の氏子。その神の
氏子を、「子育て」という名のもとに親の思い
どおりに育てようとしてはいないか。神様が子
どもを生かしてくださり、神様が子どもを育て
てくれている。その邪魔をしてはいないかと、
その傷跡が私に訴えているように思えるので
す。

《あなたへの手紙》第1回

「人付き合いが苦手

／妻が分かってくれない」

おはようございます。兵庫県・出石教会の
おおばやし まこと
大林誠です。

神奈川県川崎市にお住まいの35歳の男性から、こんなご質問を頂きました。

私は、人付き合いが苦手なタイプで、昔から友達がほとんどいません。もちろん彼女もできません。仕事はしていますが、達成感や充実感をあまり感じないまま、時間だけが流れていくようで、気が付くと中年になってしまいました。

金光教の信心をすれば、生きる喜びとか幸せ

を感じる事ができるのでしょうか。私は、幸せになれるでしょうか？

こういうご質問です。

あなたは、とても誠実な方なんです。同じ仕事をするのでも、ただ食べるためというのではなくて、生きる意味を感じるような手応えがほしい。そう思って、ご自身の生き方を見つめ直そうとされているんですから。

あなたはご自分を、内気で消極的で、人から好かれたいタイプだと思っておられるようですが、でも実際、あなたの中には自分を変えたいという、こんなにも熱い思いがあり、こうして人に相談を持ち掛ける積極性もあります。ですから、人付き合いが苦手だとか、彼女ができないなん

て思い込まずに、もつと自信を持ってもいいんじゃないですか。35歳で中年だなんて、ちょっと早すぎですよ。これから恋が始まって全然不思議じゃない年齢だと思いますよ。

信心すれば、生きる喜びや幸せを感じる事ができるかというご質問でしたね。そりゃあ、できますとも。神様は、どうかみんな幸せになつてくれよと願いを掛けてくださっているんですし、あなたもそうなりたいと願っているんですから、後は、その願いと願いがかみ合えばいいだけのことです。その両者を引き合わせ、かみ合わせる場所が、教会というところなんです。お近くに金光教の教会はないでしょうか。あったら、ぜひそこで信心する人たちに触れてみてください。その人たちこそ、信心による幸せ

の生きた実例です。

私が奉仕している教会に、若い頃から年を取った今に至るまで、いろいろと苦労が続いている女性がお参りされています。でもその方は、「神様のおかげで、今日も元気に働かせていただけて、ありがたいです。それに、そんな気持ちにならせてもらえる教会があるということがまた、ありがたいんです」と、本当に幸せそうに仰るんです。

この方は、世間から見れば、不幸な人ということになるのかもしれませんが、でも、幸せって、他人が決めるものではないですね。今の自分が生きていることの不思議さ、多くの人に支えられていてのありがたさに気付いて、心から感謝できる。それこそが幸せというものであり、

私たちが本当に求めているものではないでしょうか。

もし、教会に行くのが難しければ、例えば隣近所の人とあいさつを交わすことからでもいいですから、少しずつ人との接点を増やしていく努力をしてみてもいいでしょうか。

あなたの探している幸せが、どうか見付かりますように。

次は、岡山県にお住まいの52歳の男性のお悩みです。

自分は、若いつもりでしたが、いつの間にか老眼になっていました。最近は何や腰も痛み出し、つくづく年を取ったと感じます。

それで妻に、自分の体調のことを分かってもらいたいと思って、「目が見えにくい」とか、「肩が痛くて、手が上がらない」とか伝えるのですが、妻は決まって、「あなたは口を開けば愚痴ばかり。聞かされる者の身になってよ！」と、私を責めるような言葉が返ってくるのです。

私としては、妻が私の話を受け止めてくれさえすれば満足なんです。なかなかうまくいきません。

こういうお悩みです。

いやあ、分かります、分かります。私も体のあちこちにガタがき始めていますから。それに、その痛さや不便さは、元気な人には分かってもうありませんからねえ。ただ、幸いというべきか、

私の妻も同じくらいガタガタですので、お互いに同病相あわれんでいるところです。

あなたの奥さんは、若々しくてお元気なんですよ。でもそれも時間の問題で、そのうちあなたに追いついてこられますから、きつとお互いに分かり合い、支え合える日も来るでしょう。

しかし、今として取り組めることもあると思いますよ。あなたが、「目が見えにくい」とか「肩が痛い」とか言う時に、あなた自身はただ事実を伝えているだけだと思っただけでも、奥さんの耳には愚痴として聞こえたというのは事実なんです。それはなぜなんでしょう。もしかして普段から、何につけても不平を言いがちになっただけじゃないですか。

悪いことより良いことにしつかり目を向けて、例えば痛いところを数える時には、少なくともその倍ぐらい痛くないところも数えてみる。痛いところも、これまでは痛まずに働いてくれたんですから、「これまでありがとうね。お世話になったのに、気が付かなくて済まなかったね」と、お礼やお詫びを言う。そういう考え方が大切ではないかと思えます。

奥さんの率直なご指摘、厳しいですね。でも、ありがたいですね。良い見方、考え方、話し方を鍛えてくださってるんですから。昔から妻のことを「かみさん」と言うじゃないですか。本当にこれは、神様のご指摘かもしれないよ。だとして、奥さんに認めてもらえる自分になることは、人生の大目標にしてもいいくらいに、

値打ちのあることだと思うんですよね。

いや、これは、私自身に言い聞かせながらし
やべっているんです。お互い、頑張りましょう。



「教会は何をしている所？」

／他人の言葉に敏感」

おはようございます。香川県・多度津教会の
玉城真紀子たまきまきこです。

今朝はまず、50代女性の方からの質問です。

私の家の近くに、金光教の教会があります。

人が出入りしている様子を見掛けますが、中で何をされているのか、よく分かりません。教会では何をされているのですか？

このようなお尋ねです。

ご質問ありがとうございます。

金光教は、日本国内に約1500、国外に約30の教会がありますが、その1つがあなたの家の近くにあるんですね。

教会には、金光教の教師がいて、訪ねてこられた方一人ひとりの話をじっくりとお伺いしています。そして、その内容を一緒に神様に祈り、神様の願いや金光教の信心に基づいた物事の見方、考え方について話をします。これを取次と言います。

私の教会に、あるご家族が参拝されました。小学校1年生のヒロくんと、そのご両親です。

ヒロくんが自転車に乗りながら友達と遊んでいたら、止まっている車にぶつかってしまいました。幸いけがはなかったようですが、車に傷を付けてしまいました。怒られたのでしょうか。

ヒロくんはうなだれています。お父さんは、車の持ち主との修理代の交渉で苦勞した話、お母さんは、あんな場所に車を置いていたほうが悪いのではと、責任の所在についてばかり話しています。

すると、先生がヒロくんに向かって、「ああ、かわいそうになあ。怖かったね。体、痛くはないかな」と優しく声を掛けました。そして両親に向かって、こう言ったんです。「動いている車だったら、大変なことになっていた。大事に至らずありがたいことです。まず、このことに御礼を申し上げます」。そう言われました。

両親はハツとして、わが子を病院に連れていくのささえ忘れていたことに気付かれました。お金や責任のありかよりずっと大切なことがあ

る。無事であったわが子の命、怖い思いをしたわが子の気持ち。ご両親は、取次をとおして信心による物事の捉え方に気付いて、心が救われて、人を責める心から感謝の心へと変わったんです。ヒロくんたちご家族は手をつないで、笑顔で帰っていかれました。

金光教の教会は、信者さんだけでなく、他の信仰を持っておられる方、また特に信じている宗教がない方、どなたでもお参りできます。予約なども必要ありません。どんなことでも話していいですよ。教会では、悩みや願ひ事の相談をいつでもお聞きしています。

次は、30代女性の方からのお悩みです。

私は他人の言葉にとっても敏感で、何気ない言葉でもすぐに傷付いてしまいます。友達に相談すると、気にしすぎだと言われますが、自分ではどうすることもできません。すぐに傷付く自分が嫌になります。どうしたら良いでしょうか？

このようなお悩みです。

自分が嫌になるなんて、とてもつらいことですね。他の人の言葉に敏感で傷付きやすいのは、あなたが細やかな心の持ち主で、いろいろなことを感じてしまうからなのでしょう。人が感じない大切なことにも気付く、細やかさゆえに深く考えてしまうのかもしれないね。

私にも、人の視線がとてつらく

時がありました。結婚を機に都会から田舎へと移り住んだのですが、ある日、近所で買い物をしていると、「あの人は誰？」と話している声が聞こえます。すると、見知らぬ人が見知らぬ人に私のことを話しています。あいさつも交わしたことのない人が私を知っている。そのことにとっても驚きました。それ以来、人の視線が気になって、外出した時は、誰かに見られているかもしれないと、緊張してドキドキするようになってしまったんです。

それを母に相談すると、母も同じような体験があったそうで、私にこんなアドバイスをしてくれました。「出掛ける時、神様をお願いするの。神様と一緒に出掛けますと。そんな思いになったら、見られることも気にならなくなった

わ」。こう母から言われました。

母の言葉を聞いて私の心の向きが変わりました。それまでは、見られていることにばかり気持ちは向いていましたが、お願いして神様と一緒に歩くと、神様が見てくださっているという安心感のほうが大きくなりました。そして、そんな気持ちになったら、周りの人たちが、私を知ってくれているのも思いやりなんだと感じられるようになりました。私はこうしてつらい気持ちから助かったんです。

人は皆それぞれ違う個性を持って生まれてきています。あなたの個性も大切に生かしていきるといいですね。あなたには相談するお友達もおられます。気持ち聞いてくれる方がいるのも、素晴らしいことです。

もしよければ、一度教会に参拝してお気持ちを話してはいかがですか？ 教会の先生に話を聞いてもらうと、物事の見え方が変わってくると思います。私は、信心によって心の向きが変わりました。参拝されると、神様は私たち一人ひとりに幸せになつてもらいたいと願ってくださっているんだと感じられるようになりますよ。

どうぞ、お体にも気を付けてください。お祈りしています。

「同性愛者の息子

／がんを治療しない妻」

おはようございます。兵庫県・阪急塚口教

ふるせしんいち

会の古瀬真一と申します。どうぞよろしくお願

いいたします。

最初は、大阪にお住まいの40代男性からのご

質問です。

高校生の息子から、自分は同性愛者だと打ち

明けられ、正直、戸惑っています。金光教では、

同性愛をどのように考えていますか？

このような内容です。

これまでお子さんの成長を見守り、祈ってこられたお父さんにとって、カミングアウトは青天の霹靂へきれきの出来事。どう受け止めたらいいいのか、どう接していいのか、考えあぐねておられるのですね。

私はこれまで、同性愛の方を含め、性的マイノリティの方に実際にお目に掛かったことはありません。今回の放送を担当することになり、「私なら、どうするだろう」と考え続けています。

「金光教では、同性愛をどのように考えていますか」とのご質問でしたね。金光教の教祖・金光大神こんこうだいじんは、江戸時代の終わりから明治の初めにかけて生きた方です。その、金光大神の残した教えには、性的マイノリティーについて直接

触れたものは伝わっていないのです。そこで、人間を信仰的にどう見るかに関わる金光大神の教えを見ていくと、「一人ひとりの人間は、みな神様の命を分け与えられた、愛しい、大切な神様の子どもである。一人ひとり、神様のお働きを受け通して生きていく掛け替えのない命なのだ」と、人間を捉えていることが分かります。誰もが皆、大切な神様の子なのですから、人種や生まれたところ、国籍、宗教、学歴、職業、性別などによつて差別されるようなことがあつてはならないと述べています。音楽にしろ、食べ物にしろ、好みがそれぞれ違うように、性の在り方にも幅があるのだと捉えたら分かりやすい。そう私は思っています。

ですが、考え方はそうだとしても、本当に教

えにあるような心持ちで実際に接することができるだろうか、不安になつてしまいます。もしかすると、質問してくださつたあなたも、息子さんへの向き合い方が見出せず、苦しい日々を送つておられるのかもしれない。

一人ひとり違うことだらけの人間ですから、言い争うこともある。でも、仲直りもできる。そんなふう折り合う心を、神様が授けてくださつていますよね。「互いに尊重し合つて暮らせますように」という祈りを持ち、それを叶えるための努力をこつこつ重ねていくことを忘れてなければきっと大丈夫だと、私は信じていこうと思ひます。ご参考になさつてください。

続いては、50代の男性からのご相談です。

先日、妻が検診に行ったところ、乳がんが見付かり、ステージ3だと診断されました。妻は

以前から、「無理に長生きはしたくない。もしも自分にがんが見付かっても積極的な治療はしない」と言っていました。今回、妻はその宣言どおり、「治療はしない」と言っています。私は、きちんと治療をして、もっと生きてほしいと願っており、妻の思いをどう受け止めていいかわかりません。どうすればいいでしょうか。

このような内容です。

人生の伴侶である大切な人に、重い病気の診断。そして、「生きてほしい」と願うあなたの思いを拒むような奥様の決意。本当におつらいことと思います。この放送をとおして、ご夫婦

の上に光が射すことを願いながら、お話しさせていただきます。

早速ですが、奥様が、診断を受けられた後もなお、「治療はしない」と言われるのは、なぜなのでしょう。「薬や放射線、手術に抵抗を感じるから」、「治療に耐える自信がないから」、「与えられた時間を治療以外のことに使いたいから」などなど、いろいろと想像してしまえます。

表面的には取り繕っておられても、もしかしたら奥様は、まだまだショックの最中であって、病状を受け入れ切れておられないかもしれない。これからのことを冷静に考えられるほどには落ち着いておられないかもしれないなど、多くの人の悩みを聞かせてもらってきた私には、

そんな気もするのです。

「治療はしない」という奥様の思いを受け止められないでいるあなたが、「治療を受けてほしい」と主張するだけでは、ただ意見が対立してしまうばかり。それでは、お互いにもっとづらくなくなってしまいますよね。

治療を受けるにせよ、受けないにせよ、お二人は、お互いを思いやり合いながら、奥様の病気という状況を、共に生き抜かなければなりません。ですから、今はまず、この厳しさを乗り越えて生きていくチームになることを目指してほしいと思います。

こんな時だからこそ、金光教の教会で、ご夫婦それぞれが、そつと静かに神様に祈ったり、教会の先生に整理のつかない思いを受け止めて

もらう。そうすることで、二人で進もうと思える新たな道筋が見えてくると思うのです。お体の具合が許せば、金光教の教会を訪ねてみてください。お二人の心がそろっていくようにと願っています。

これまでも、今の厳しい毎日も、掛け替えのない命を授かって生きている。時々刻々、そうして生かされていることを喜び合える、素敵なお二人になれますように。

「金光教の特質

／離婚したい」

おはようございます。金光教すみぞめ墨染教会の松岡まつおか光一こういちです。

最初は、大阪府にお住まいの50代の男性からのお尋ねです。

世の中にいろいろな宗教があるのは、それぞれに特質があるからだと思えますが、金光教は、何が他と違っていて、何が誇れるところだとお考えでしょうか。

こういうお尋ねです。

確かに世の中には、いろんな宗教がありますよね。歴史の古い、伝統的な宗教もあれば、新興宗教と呼ばれる新しい宗教もあります。金光教は、誕生して160年あまりですので、そこそこの歴史を積み重ねてきていますが、仏教やキリスト教などに比べると、まだまだ新しいほうかもしれませぬ。

そうとして、お尋ねにありました、他宗教と違って金光教の誇れるところについてですが、他宗教と違うかどうかは分かりませんが、私が感じている金光教のいいなあとと思うところをお聞きいただきたいと思います。

それは、「自由で、縛りやとらわれのない信心」ということです。宗教というと、よく洗脳されるとか、取り込まれるとか、抜け出せなく

なるというイメージを持つ方がありますが、金

光教には、そうした面が一切ありません。参拝するのもしないのも自由ですし、献金するのもしないのも自由です。献金をするにしても、その金額も自由な宗教なんです。それは、お参りする人それぞれの事情が違いますから、その人に合った信心のスタイルを大切にしているという事なんです。

金光教の信心の特徴的なものとして、取次があります。これは、お参りした人が、教会の先生に自分の悩みや願いを聞いてもらい、それを先生と一緒に神様に願ってくださり、そして、その人その人の助かりに向けての話をしてくださるといふものです。人によって、悩みも願い事も違いますから、先生が話される内容もそれ

に応じて違ってきます。

以前、ある方から、「金光教はオーダーメイドの宗教なんです」と言われたことがあります。一人ひとりの注文に合わせて作っていく「オーダーメイド」と言われてみて、私のほうが、「なるほど。そうだな」と納得したのですが、金光教は、一人ひとりに合わせた信心を大切にしている宗教ということが、特質の大きな一つになると思います。

どうぞ一度お近くの教会にお参りしてみてください。そのオーダーメイドの信心を体験してみてください。

次に、愛知県にお住まいの40代女性からのお尋ねです。

夫はいわゆるフラリーマンで、勤めが終わると、カラオケやゲームセンターなどで時間を潰して帰ります。無駄にお金を使い、家事や育児に全く協力してくれないので、腹が立って仕方がありません。子どもが成人したら離婚しようと真剣に考えているところです。どうしたらよいのでしょうか。

こういうお尋ねです。

「フラリーマン」というのは、仕事が終わっても、フラフラと寄り道をして、すぐに自宅に帰らない人たちのことを指す最近の言葉ですね。ご主人が、その「フラリーマン」で、ご家庭のことを全く考えておられないというのは、困ったことですね。お子さんが成人したら離婚

も考えているとありましたが、そこまで我慢して今の関係を続けられるのでしょうか。自分のことしか考えない人と一緒に生活をされていては、あなた自身も、子どもさんも、苦しいだけではないでしょうか。

まず、一番大切なことは、あなたが今抱えている不満や不安を、ご主人にきちんと言えるところだと思えます。一緒に暮らしている家族が抱えている苦しみを、共に理解し合うことができず、その家族であり、夫婦であると思えます。

まずは、あなたから、あなたの正直な思いをご主人に伝えることから始めてみてはどうでしょうか。もしも、あなたの言葉に、全く耳を貸さない人であったならば、その時は、別れることも選択肢の一つだと思えます。

でも、あなたの話を少しでも聞こうとしてくれる人であったなら、あなたもご主人の気持ちをきちんと聞いてあげてほしいと思います。ご主人が、なぜカラオケやゲームにお金を使うのか。なぜ家に帰りたくないのか。家事や育児をどう考えているのか。

お互いが心の中にしまっている思いをゆつくりと出し合い、じっくりと話し合うことができないのなら、ここから夫婦の関係は改善できにくくはまずです。夫婦の関係が良くなるチャンスだと思います。

誰でも自分が正しいと思っています。夫婦の関係も親子の関係も、職場での人間関係も同じです。お互いが、自分が正しい、相手が間違っている、相手を責めるだけで、向こうの言い

分を聞こうとしなければ衝突しか起こりませんし、それではお互いが助かりません。

話し合いとは、お互いの意見や主張をぶつけ合うことではなく、相手の言うことをよく聞き合うことだと思います。お互いに主張するだけでは話し合いになりません。相手の意見をよく聞くことが基本でなければ、良いものは生まれませんし、話もまとまりません。

相手の話がしっかり聞けますようにと、神様に祈りながら、ご主人との話し合いの時間を持つていただければと思います。

《信心ライブ》

「ふつと浮かんできた言葉」

おはようございます。

今日は、高知県・金光教須崎教会すさきの教師、
竹内貴志たけうち たかしさんが、平成25年、金光教本部でお話
しされたものをお聞きいただきます。

竹内さんは、金光教が発行する金光新聞の編
集員として、取材や原稿作成のお仕事をされて
います。

自分が担当している書かなければいけない原
稿を、4本から5本ほど同時にその時抱えてお
りました。4本から5本というのは、決して少
なくはないのですが、そんなに珍しいことではあ

りませんで、よくあることなんです。その時も、
大変だなという思いはありながら、これまでの
ように、締め切りには遅れずに、丁寧に一つひ
とつ書かせてもらおうというつもりでした。同
時に2つも3つも書き上げてしまうような器用
なことはできませんし、またそれだけの能力も
私にはありませんので、一本一本本当に丁寧に
仕上げるつもりで御用させていただこうと思っ
ておりました。ところが、いざ始めてみますと、
思うようにはかどつてくれないんです。

「今日中に書き上げることができませんように」
「少しでも進めることができますように」とお
願いしながら、毎日御用させていただいていた
のですが、全然はかどらないんですね。一本す
ら仕上げることができないまま、どんどん時間

が経ちまして、前向きな気持ちでお願いをするということはもうほとんどできなくなっています。たまたまない気持ちをひたすらお願いするというよりは、もうただ神様にぶつけるような、お願いにもなっていないかったかもしれません。が、そういう形で神様にお願ひしておりました。

ずっとそういうたまたまないような気持ちのまま、頭を下げて御祈念ごきねんしておりましたら、ふつとある言葉が私の頭の中に浮かんでまいりました。教会長である父の言葉です。その父がいつも必ず言ってくれる「御祈念ごきねんしとるからな」というひと言がふつと頭の中に浮かんできたんです。「御祈念ごきねんしとるからな。お願いしとるからな」という普段言ってくれる言葉がふつと頭をよぎって、その瞬間に、その言葉の主である父

の顔はもちろんですけども、それと同時にいろんな人の顔が私の中を駆け巡っていきました。何か自分に近い立場にいる人たちの顔が次々と思ひ出されてきて、父親だけではなく、その浮かんた顔みんなが自分のことを祈ってくれてるんだろうなというふうに思えたんです。

そうしましたら、次の瞬間には不思議なことに、さっきまですぐたまたまない気持ちで御祈念ごきねんしていた、そのたまたまない気持ちきもちが、すぐすーっと楽になってきました。そして、「よし、今日頑張ってみようか」という前向きな気持ちきもちが、ふつふつと自分の中から湧き上がってきたんです。

祈られているとか願われているという実感を
得たからといって、急に私の能力が上がったと

かいうことではありません。相変わらず原稿はたまっておりまし、何も状況は変わっていないんですが、その祈られているということを実感させていただいた時に、ただ一つ私の心が変わったんです。それまで職場に行っても、ずっと、「ああ、果たして今日終えることができるだろうか」というような心配を引きずったままのような気持ちで御用させていただいていたのが、その日は、「よし、頑張ろう。記事を書き上げさせていただこう」と、何か本当に自分でも驚くほど前向きな気持ちにならせていただいております。状況は何も変わっていない。しかし、自分のこの心が変わったことで、そこから驚くほど仕事がかどり始めまして、本当に自分でも最初は想像もしなかったような良い形

で一本一本書き上げることができたんです。

今現在、私が生活とか御用の上で、これまでと同じように、「うわ、困ったな」というような問題や課題に直面した時、まず最初は相変わらず、「大変やなあ。困ったなあ」と思うんです。しかし、これまではずるとその「困った。大変だ」という気持ちに引っ張られていたのが、そう思った次の瞬間に、「いや待てよ。これは、父を始め皆、そして教主金光様が自分を祈ってくれている。願ってくれている。そういう祈りの中での出来事だ」と、気持ちの切り替えができるようになってきました。切り替えといっても、本当に鮮やかに切り替えられるわけではないんですけれども、ただ、悪循環のほうに落ちていきそうになるたまらない気持ち

を、ぐっとそこで踏みとどまって、そこから問題や課題に取り組むために自分が一歩踏み出す勇気を与えてくれてるのが、私の今の祈りの自覚、実感であります。

祈られている。祈ってもらっている。そして、そのことがありがたいと相手に思ってもらえるような、そういう祈りを私自身がこれからしていかなければいけないだろうと思っっています。これまでは、本当に自分のことをお願いするので精いっぱい、せいぜいあとは家族のところまでが本当にぎりぎり精いっぱいというようなところでした。

でも、これから、自分のことはもちろんお願いさせていただかなければいけないんですけれども、家族、友人、知人、そういう人たちにも

私自身の祈りの世界、祈りの輪を少しずつ少しずつ広げていかなければいけない。そういう課題が今自分に与えられているんだろくなあと思っています。また、「人を祈れるようになる」ということも、父の祈りの中には含まれているんじゃないかなと思わせていただきます。

手を合わせて、頭を下げて、自分のことプラス自分と関わりのある多くの人のことを祈っていく。そして、祈ることができるということは本当に大切なことだなあと思わせていただきませす。

いかがでしたか。

「自分はみんなから祈られている」。そのことを実感した時、一人で苦しみ、行き詰まって

いたところから、心を落ち着け、前向きに取り組んでいく勇気が生まれてきました。互いに神様に祈り合うことを大切にしていきたいものです。



《信心ライブ》

「神様がさせてくださる」

おはようございます。

今日お聞きいただくのは、兵庫県・清滝教会きよたきの教師、中村宏子なかもろこさんが、平成29年5月、ある教会の祭典の後に話されたものです。長いお話の、ほんの前置きの部分ですが、「信心とは何か」ということについて、非常に大切な内容を含んでいると思いますので、聞いてみてください。いい。

私が初めてご大祭でお話をさせていただいたのは、今から2年前です。親教会である八鹿教やうか会でお話をさせていただきました。でも、実は

それより以前に一度お断りしたことがあったんです。その時も八鹿教会の親先生からお話の御用してくれんかなと、ありがたいお言葉を掛けていただいたんですけども、私はその時お断りしてしまっただけです。それというのが、一番下の娘・わかばがお腹にいて、その5月がもう臨月だったんですね。すごいお腹をしまして、もし体調が悪くなったりして、当日来られないなんていうことになったら悪いなあと思ってお断りさせていただいたんですけども、それでも私は申し訳ないなという気持ちと同時に、どこかでほっとしていた自分もいました。やっぱりすごく緊張しますし、私にそんな大役が務まるだろうかという思いがあったと思うんですね。それから、何とか順調におかげを頂いて、5

月の23日に陣痛がきて、八鹿病院に行かせていただいたんです。でも、なかなかお産が進まなくて、もう本当に苦しくて、「金光様、金光様」とずっとお願いしたんですけども、しばらくしたら助産師さんが触診してくださって、ひと言、「赤ちゃんが強韌ちやうじんな卵膜らんまくに包まれている」と言われたんです。赤ちゃんを覆っている膜がすぐく硬くて、それが破れないからお産が進まず、それで結局、助産師さんに人工的にその膜を破っていただいて、わかばは無事に生まれてきてくれたんです。

まあよかったよかったという話なんですけども、後になって考えてみますと、私は本当に、「ああ、何てご無礼なことをしてしまっただんな」と思っただんです。親先生からお話の依頼を

頂いた時に、私は神様に、「どうぞ御用をさせてください」というお願いをせずに、自分の勝手な考えだけでそれを断ってしまっていたんですね。たとえ臨月に入っていても、しっかりお願いして過ごさせてもらっていたら、どんな形でも御用できたんじゃないかなと思って、すぐ後悔しました。

「赤ちゃんが硬い膜で覆われてる」と言われた時に、神様から、「ほら、赤ちゃんのことちゃんと守ってやっているんだぞ」と言われたような気がしたんです。そんなことがあったので、それから3年後の春に、「お話の御用を」と言われた時には、すぐに「させていただけます」と言わせていただきました。

教祖様の教えに「何事にも、自分でしようと

すると無理ができる。神にさせていただく心ですれば、神がさせてくださる」とあります。今もまさにそのとおりなんですけども、3年前は今よりもっと子どもたちも小さくて、私ももっとバタバタしてましたので、ご大祭までの一日一日を、本当に神様にお願ひしながら過ごさせていただいて、御用を無事に務めることができたんですね。

そうしたら、不思議なことが起こったんですけど、そのわかばが生まれた時からずっと便秘で、3日4日に1回出るのがもう当たり前。それも病院から頂いたお薬を飲んだり、私が綿棒で肛門のところをしてやらないとなかなか出なかつたんです。しかも3歳を過ぎてても、わかばは、ウンチというのはトイレでするもんじゃな

くて、オムツの中にするもんだという思いがあつたみたいで、なかなかおむつが取れなかつたんです。

そしたら次の夏の八鹿教会の教会設立記念祭の日の朝、「さあ、もう行こう」とした時に、急にわかばが「トイレ行きたい」と言い出しました。私は、「ああ、もう急いどるのになあ」と思いながらも連れていったんです。そうしたら、トイレで便が出まして、わかばも、「ワッピ（わかば）、うんち出た」とすごく喜んで、私も本当にうれしくて、「金光様、おかげを頂きました。ありがとうございました」と叫んでたんですね。それから毎日毎日、便がちゃんとトイレで出るようになりまして、3年以上あつたその便秘が、この日を境に治つたんですね。

私は、御用をさせてもらったからそうなったのかというようなことはちょっと分からないですけど、それでも、神様が親教会のお祭りの日にそういうおかげを下さったということが、本当にうれしかったですね。

「自分には無理だ。到底できっこない」ということでも、「自分がするんじゃない。神様にさせていただくんだ」と思わせてもらったなら、本当に気持ちが悪くなるんです。

大変な仕事を頼まれた。お産の時、卵膜が硬いと言われた。子どもがトイレを使えるようになった：事柄だけ見れば、取り立てて珍しい話ではありませんし、何のつながりもない出来事のようにも見えます。しかし中村さんは、日々

のこうした事柄の中にも、神様が自分に懸けてくださる期待や深い愛情を、丁寧に読み取っていきます。そして、それを心の支えとして、難しいこと、苦手なことにも、明るく元気に取り組んでいくんです。

中村さんの声から、「ありがたいなあ」という気持ちが伝わってきます。信心というのは、こういう物事の捉え方、生活の仕方のことなんです。

《先生のおはなし》

「キセキじゃない」

三重県・松阪新町教会 まつさかしんまち
水野照雄 みずのてるお

今年大学に入った、由香ゆかさんのことをお話しします。

由香さんは、私の奉仕する教会に、小さな時からお参りしています。お母さんと一緒にやってきては、いろんなことを神様をお願いしてきました。

高校に入って、進路を決める段になると、由香さんは「大学でフランス語を学びたい」と言い出しました。どちらかと言えば引つ込み思案で、はっきりと物を言うことが得意ではない彼女にしては、ちょっと珍しいことでした。でも、

それにはちゃんと理由があつて…。

由香さんが中学生の時、お母さんがフランスの取引先とやり取りする仕事を任されたことがあったのです。ただ、お母さんも外国語が得意だったわけではなく、たまたま配属された部署で、その仕事が当たってしまったというのが実際のところでした。

それでも、あいさつぐらいはと練習したり、現地の時刻に合わせて、夜、自宅から連絡を取ったりしました。おばあちゃんに子どもを預けて、フランスへ出張したこともありました。そんなお母さんの姿がとても強く印象に残っていたので、由香さんは、フランス語を勉強したいと思うようになったのでした。

そういえば、由香さんは、勉強でも何でも、

要領よくチャチャッとこなすタイプではなくて、時間は掛かっても根気よく取り組むほうです。そして、一度こうと決めたら、てこでも動かないくらいの信念の強いところもあります。そこはお母さんによく似ています。

それと、由香さんには得意の必殺技があつて、それが、ニコニコスマイルです。どうすればいいかわからない時なんかは、とにかくニコッと最高の笑顔ができるのです。すると、あら不思議。周りにいる誰かが、何かと救いの手を差し伸べてくれるという、そういう技です。これには、小さい時からずいぶん助けられてきたのでした。

さて、進路が決まり、志望校も絞り込み、いよいよ受験に臨むことになりました。塾にも通

い、模擬試験も受けました。ところが、思うように成績が伸びません。模試の判定も良い結果が出ません。でも、よくできる友達が親身になつて教えてくれて、自分でも寝る間を惜しむようにして努力しました。

今年のお正月、由香さんは、家族そろつて、岡山県にある金光教の本部にお参りして、大学合格を神様に願いました。

そして、金光教の教主である金光様に、「志望校がここここで、外国語を勉強したくて、でも成績がまだまだで」とお話ししました。金光様は、「うんうん」とうなずいて聞いてくださり、優しい笑顔で、「神様にお願ひして、ちゃんと努力すれば、あなたにとって一番良い道へ導いていただけるからね」と言ってください

ました。

1月になればセンター試験、そして、私立大学の試験も本番です。由香さんは、多くの試験に挑みました。

そんなある日、おばあちゃんがお参りしてきて、「どこでもでいいので何とか一つ合格を。奇跡が起きればいいのに」。そんなふうに願っていきました。

しかし、2月になっても一つも合格できず、結果、前期の試験は全て不合格ということになってしまったのです。このことを報告しに来てくれた時には、さすがにニコニコスマイルは出ませんでした。あいまいな笑顔を見せて、「大學生になりたいんです」と細い声で言うのがやっとでした。

でも、まだチャンスはあります。3月、後期の試験。

由香さんは、2校だけ受けることにしました。オープンキャンパスにも出掛けて、ここが良いと思っていた最初からの第一志望と、新しく学部ができて国際関係を学べるところ。2つとも前期試験では不合格だった大学への再挑戦です。

無事、最後の入学試験を受けて、しかし結果に自信がなかった由香さんは、帰り掛けに予備校の見学をしてきました。

そして、結果発表の日。由香さんからの電話は、「合格しました」とのほっとしたような小さな声。そのひと言を聞いて、私は胸がいっぱいになり、「良かったね」としか言えませんでした。由香さんは「第一志望と、もう一つのと

ころと、二つとも合格しました」と、言葉を継ぎました。私は、うれしくて、もう何も言えませんでした。

その時私は、これは偶然ではないと思いました。一つだけならまだしも、2つとも最後の最後に合格できるなんて、あまりにも出来過ぎだと。私は、金光様の「あなたにとって一番良い道へ導いていただける」とのお言葉を思い出しました。

なかなか結果が出なくて悔しい思いをしたし、不安にもなったけれど、それは無駄ではなかった。回り道のようにも思えるけれど、神様に願いながら一生懸命努力してきたことで学力も付いたし、何というか、たくましくなっただけです。

そして、夢にまで見た大学生活：ですが、新型コロナウイルス流行のため、なかなか思うに任せません。入学式も中止になり、講義は年間を通してオンラインになりました。せっかく大学の近くに借りた下宿でしたが、結局そこで暮らすことはできず、ついに解約ということになりました。

ともすれば気持ちが塞ぎそうな、そんな毎日ですが、由香さんは前向きです。「一人暮らしをすれば必要になるから」と、お母さんに教わりながら、朝晩の食事の準備を始めたのです。すると、めきめき腕を上げて、お母さんのお弁当まで作るようになりました。

先の見えない状況でも、神様をお願いしながらちゃんと歩いていけば、きっと「良い道」に

つながっていくはずだと、私は思っています。



《信心ライブ》

「あなた任せではいかん！」

おはようございます。

今日は、大阪府・金光教おほどり鳳おほどり教会の教師、
工藤和也くどうかずやさんが、令和元年10月に岸和田教会で
お話しされたものをお聞きいただきます。

工藤さんは、金光八尾こんこうや高校で非常勤講師として
31年間宗教の授業を教えました。けれども元
々は、金光教の教会での御用以外の仕事に就く
ことに迷いがあったそうです。

学校の理事が、わざわざ私の教会へ来てくださって、正式に宗教の教員として勤めてもらえませんかと依頼がありました。その時、私は学

校の先生になりたい気持ちがあるけども、「いや、一生お道の御用に」という気持ちもあったので、どうしようかと迷ったんです。いよいよ自分の人生の岐路かもしれないという気持ちになって、その決定を金光様に決めてもらおうと思っただけです。

金光様というのは金光教の教主のことです。本部は岡山県にあります。

ご本部にお参りをして、その当時は四代金光様でございましたが、四代金光様のところへ行きました。岡山弁で、「そうじゃのう。そうじゃのう」というふうにも優しい教主です。その教主の元へ行行って、「来年から宗教の教員

というお話を頂いたんですが、どうさせてもらいましょう？」と聞いたんです。すると、それ

までニコニコしていた教主様が、いきなり大きな声を出されて、私は叱られました。「あの教主があんな声出すんや」とビックリして、もう「ははー」となってしまつて、そこから30分ぐらいお話ししてくださいました。後にも先にも四代金光様から30分もみ教えを頂いたことは、その時限りです。

要点を3つ仰いました。1つ目が、「願いを持つことが大切です」というお話でした。「あなた任せではいかん！」というわけです。願いどおりのおかけを頂くかどうかは分からんけれども、まず願うということがあって、「自分はどうしたい」という願いをしっかりと持つ。そこ

からどうなつていくかは神様任せの部分があるかもしれない。

そして、「どの御用も神様の御用です」と仰いました。御用の平等性ということです。金光の教師だけが神様の御用してるわけではない。サラリーマンはサラリーマンという御用、家庭の主婦は主婦という御用、これも神様から頂いた御用。教主は、「私も神様から、教主という御用を頂いております」と仰いました。

私の中では、教主が一番で、生きてる神様感覚でした。そして、その下に教会の先生がおられて、ご信者さんがおられて、未信奉者の方がおられて…と、こういうピラミッド型を考えてたんです。私のそれまでの考えでは、その一番頂点が教主だったわけです。でも、違ったので

す。「神様がいて、みんな平等で、それぞれに御用を頂いてる」ということでした。私のそのピラミッド型の考え方を大きく否定されました。でも、本当にそのとおりです。私はまだ世間知らずで分かっていなかった。

そしてもう一つ、「ただし、身に応じた御用がございます」と仰いました。例えば、年配の方に、いくら神様の御用だからといっても、重たい荷物を「はい、神様の御用！」と持って持たせるわけにはいきません。人それぞれに応じた仕事がある。昨日会社に勤めたばかりの子に、明日から社長をやれと言っても、社長の御用はできません。仕事の中身が分からない。社長には社長の御用がある。平社員には平社員の御用がある。それぞれ身に応じた仕事がある。御用

がある。こういうことでした。

そして最後に、「お前はこういう願いを持つんじゃない？」と改めて仰いました。そこまで諭されると、「来年度の金光八尾高校の宗教の教員として勤めさせていただきたいと思えます」という願いを持てるようになり、そのことを金光様に改めてお届けをし、そういう思いで学校へ勤めるようになりました。

いかがでしたか？

工藤さんは、迷っていた気持ちを素直に金光様に話したところ、金光様からいろいろなことを教えていただき、大切なことに気付かされ、自分の進むべき道が決まったようです。

進むべき道を金光様に決めてもらうという

「あなた任せ」ではなく、工藤さん自身で考えて願いを持つことができました。願いが定まりましたら、神様へのお願いもしやすくなつて、神様に導かれ、良い方向に進んでいきました。

私も迷ったり悩んだりした時、教会の先生に打ち明けて、気付きを頂くことがよくあるので、心も落ち着いてきます。



《信者さんのおはなし》

「分かるうとしてくれたから」

金物の町として有名な兵庫県三木市みきにお住まいの藤原和憲さんふじわら かずのり。藤原さんは35歳。7年前、家の近くにある金光教三木教会に初めてお参りしました。今では、毎日お参りをしているそうです。なぜ毎日お参りに行くのか聞いてみました。

神様にお問い合わせとか、神社にお参りする時というのは、大体お願い事だけで、そういう認識だったんです。でも、以前に僕の悩みを神様にお問い合わせしようと三木教会にお参りした時、三木教会の教会長が親身になって悩み事を聞いて

くれたんです。僕の気持ちを理解しようとしてくれたんですけれども、当然他人の気持ちというものは100パーセント分かるはずはない。けれども、それでも何とか分かるうとしてくれた。その姿勢といえますか、その姿がとても印象的で、何があってもそれを教会長が続けてくれたんですね。僕が精神的に病んでいた時に、日常生活を取り戻せるようになるまで続けてくれたので、何とかそれを乗り越えられたんです。

けれども、「これは本当に神様の力なのか」とも思いました。自分の他に、何か別のものがないで自分が助かったとは、どうしても思えなかったんですね。ただ、自分も簡単には信じられないけれども、それを続けることによって、何か分かるものがあるのではないか。見えてくる

ものがあるのじゃないかと思ひまして、それがきっかけで毎日お参りするようになりました。

神様が信じられない中にも毎日お参りを続けている藤原さん。そんな藤原さんに、お参りして何か良い事があつたか尋ねてみました。

以前アルバイトしていた所で、年下の子がサボったんですね。僕に何も言わずにサボったもので、さすがに腹が立ちまして、それで上司に報告したんです。そうすると、ちょうど休憩するくらいにその子がやってきて、僕に「上司に言ったんですか？」と言つてきました。当然のことですから、「サボったんで、上司に報告した」と言うと、ふてくされたような態度を取っ

て、「そういうことをするんやったら、向こう行つてください」というようなことを言われました。「キレてんのはこっちなのに、逆ギレかよ」と思ひまして、それでどうしても許せない気持ちになりました。

それで教会にお参りして、教会長に腹が立つことを話しているうちに、僕が小学生の時、同級生の女の子をいじめていたのを思い出したんです。当時小学校3年生とか4年生の頃ですから、遊び半分の感覚でやってたと思うんですけども、それでもその女の子が泣いて帰つてきたと、その子のお母さんが僕の両親に話したらしいんですね。そのことを自分の親から聞かされて初めて知ったんですけれども、当時、僕はそこまで人を傷付けてとは思わなかつたんで

す。でも、今になって、どれだけその子はつらかったのかなというのを省みて、自分の中で心が痛みました。そのことを、教会長と話しているうちに急に思い出したんです。誰でも知らず知らずのうちに人に迷惑を掛けたり、人を傷付けたりすることを、自分の分らないところをやってる可能性があるんだと気付きました。

腹が立ったことを教会の先生にお話ししているうちに、藤原さんは自分が過去にいじめをしていたことを思い出したのです。それは、一見全く違う出来事のようにですが、藤原さんは、「あなたも知らないうちに人を傷付けていることがあるんだぞと、神様がこのことをとおして教えてくれた」と仰います。

日常生活において腹が立ったりとか、つらい事とか、嫌な事は当然あるんですけれども、そういうのを毎日お参りして教会長に話しているうちに、だんだんといろいろな物事をなるべく多角的に見ようと思うようになりました。良い面も悪い面も見ると、どうしても自分が気に入ったものとか、これはいいなと思うと、それしか見えなくて、反対に嫌だなとか腹が立ったりとかすると、今度はその部分しか見えないんです。それで、それをもっと違う見方はできないものかと思いました。ただ、そんなことを考えること自体、正直面倒なのですが、毎日お参りするようになって、少しずつではありますが、嫌な面だけでなくだんだん良い面も見えるようになってきました。

実際、毎日お参りしていると、腹が立っている時でも、帰る頃には心が洗われた気分になって、すっきりしているのです、その繰り返しだと思うのですけども、これからも、毎日お参りを続けていきたいと思います。

「神様はいろんなことをとおして自分の足りないところを教えてくれる。まだまだ分からないことのほうが多いけれど、教会長が私のことを分かってくださるようになってくれたように、神様のことを分かってもらう努力をしていきたい」

藤原さんは、とても穏やかな表情で、こう話してくれました。

《先生のおはなし》

「窓の向こうから」

兵庫県・阪急塚口教会 古瀬真一

新型コロナウイルスの感染が広がり、緊急事態宣言が出されていた頃のことです。ニュースでは、感染の広がりや経済活動の停滞など、厳しい状況が四六時中伝えられ、信者さんからも、「感染が怖くて外出できない」「仕事ができない」という切実な声が寄せられるようになりました。

人の動きが止まっているため、教会の前の県道を通る車はまばらになり、近くの空港を離着陸する飛行機もほとんどないようで、とても静かです。空気も、心なしか普段より澄んでいる

ように感じられました。私は、そんな変化を、せてもの好ましいことと受け止めながらも、「心地いいな」「うれしいな」といった感情が少しも起こってきませんでした。報じられている危機的状况と、目の前ののだかさとのギャップ。体は生きているけれど、心は半分死んでいくような感覚。どうすることもできない無力感と空しさに押し潰されそうでした。

ある日、塞いだ気分のまま、換気のために庭に面した窓を開け放った私は、見慣れていたはずの庭の美しさに、はっと息をのみました。4階建ての建物の北隣にある教会の庭。谷底のような場所なのに、キラキラとまぶしい太陽の光がふんだんに降り注いでいます。新緑の柿の葉が爽やかな風を受け、みずみずしく輝きながら

心地良い音を立てていました。生命力に満ちた平和で明るい世界が、そこには広がっていました。私は、少しだけ、心がほぐれていくのを感じました。

そんなふうに気持ち動いたことがうれしくて、教会の祭壇の前に正座し、額を畳に付けるように深く頭を下げました。そして、たった今日にした、庭に面した窓からの景色を思い浮かべながら、「感染は広がっているけれど、今、この時、こうして命を授かって、生かしていただいている。本当にありがたい。幸せなことだ」と、神様にお礼のお祈りをしたのでした。

そうして祈っていると、なぜか大学生の時に暮らした部屋からの眺めが、まぶたに浮かんできました。海拔770メートルの高原に位置するキ

ャンパス近くにあるアパートの一室。西側の玄関ドアを開けると、なだらかな上り勾配の畑が伸びやかに広がっているのが見えました。また、東側の窓の前に置いた勉強机に座れば、牧草に覆われた農場のはるか向こうから、まるでこちらを見守るかのように、美しい姿をした甲斐駒ヶ岳かひこまがたけが、いつも気高くそびえていました。一人暮らしの寂しさも、人間関係の悩みも、卒業論文の行き詰まりも、それに失恋の痛みまで、この部屋からの景色を眺めているうちに、あれもこれも忘れ難いすてきな青春の思い出になっていったのです。

「ちゅんちゅん：ちゅんちゅん」。庭から聞こえてきたスズメの鳴き声で、私は、我に返りました。神様にお祈りをしていたはずが、いつ

の間にか、若かりし日の窓辺へと、記憶の旅に出ていたようです。

私は、庭に面した窓からカーテン越しに、しやがんでスズメをのぞいてみました。柿の木の葉陰に慌てて隠れたスズメたちが、1羽、2羽と目の前に舞い降りて、愛らしい仕草で餌をついばんでいます。ほんの一瞬でしたが、1羽のスズメと目がパチツと合いました。

その時、窓の向こう側から私に向けられたまなざしがあることに気が付きました。自分が見られているなんて思ってもみませんでした。私が見ているスズメも柿の木もお庭の石も、逆に私を見ているかもしれないと思ったのです。

スズメは、時折サツと宙を舞い、場所を変えながら餌をついばんでいます。私は、それを眺

めながら、再び記憶の旅へと戻ります。

大学生の時、部屋の窓から見た、伸びやかに広がる畑の景色が、「独り善がりの狭い考えにとらわれているんじゃないか」と気付かせてくれたこと。堂々と気高くそびえる山の峰が、うつむきがちになつていた私に、「自信を持って、どーんと構えておけよ」と言わんばかりに、見上げればいつもそこに在ったこと……。あれこれ思い出しているうちに、「私は、窓の向こうのあの美しい世界から、いつも見守られ続けているんだ」「あの頃も、今も、ずっと神様が見守つてくださっていたんだ」という気がして、だんだん元気が出てきました。

「よし！」と思つて立ち上がると、驚いたスズメはサツと屋根の向こうへ飛び去っていきま

す。私の心に重くのしかかっていた無力感と空しさも、どこかへ飛んでいったのでしょうか。すがすがしい気持ちが湧いてきました。

もちろん、状況はさつきと何も変わってはいません。けれども、今までずっと、そしてこれからも、神様からの温かいまなざしが私にも向けられているんだと思えば、「焦ることはない。

今は直じかに会うことはできないけれど、会えないからこそ、つらさの中にある方たちのことを、これまでにも増して祈らせてもらおう。それが、今の私の役割なんだ」と、私は、自分の心の置き所を定めることができたのでした。

心の窓の向こうから向けられた神様のまなざしに気付けば、新しい世界が見えてきます。慈しみに満ちた神様の祈りのまなざしはいつも、

私にも、あなたにも向けられているのです。



《信心ライブ》

「素直な改まり」

おはようございます。

今日は、愛媛県・金光教上宇和教会かみわの教師、三好定男みよしさだおさんが、令和2年1月に金光教本部でお話しされたものをお聞きいただきます。

三好さんは、消防署員の活動を補佐する地元消防団に入っています。毎年9月に開催される消防訓練大会の選手に選ばれました。その時のお話です。

昨年の8月末のことです。選手は他の団員の方々から補佐を受けながら毎日2週間、夜7時半から9時頃まで中学校のグラウンドでみっち

り練習するのですけど、これがまたハードであります。

私は、今まで2回選手に選ばれて出場したところがあるのですが、昨年は5年間その役で出場してこられたAさんが仕事の都合で出場できなくなりまして、急きよ私がそのAさんの代わりに出場することになりました。

この役割を指導してくださるAさんがご自身の都合で出られないというところを私は思っていたのですが、そんなAさんにすごく厳しく指導されることで私は本当につらく感じておりました。私は初めてする役でしたが、以前2回ほど別の役で出ておりましたので、そこ共通する動作もありまして、余裕を持っていたのですが、その余裕がいけなかったようで、厳しく

指導されました。その指導は、やはりAさんより年齢的に私のほうが上だったので、もう少し遠慮と容赦をいただいで指導してほしいなあと思っていました。本当に厳しくて、練習開始した2、3日後には、私は本当に憤りを感じてしまいました。まあ自分も年を取ってなかなか覚えきれないから少々のことは大目に見てほしいなあとという思いがしていました。そんなふうにも思っていた私だったんですけれども、本部で御用されている先生の中に消防団に入っておられる方もおられて、先輩の先生に愚痴を聞いてもらっている時に、こういうお話をしていただきました。

「今の時代は師と仰ぐ先生がいない。師匠不在と言われているけれど、本当に不在なのは師

と仰ぐ先生のほうではなくて、先生を師と仰ぐ弟子のほうがないのだ」と、そんな話を聞かせていただきました。その時、「そうか。私は、指導してくださるAさんのことを、年下のくせにとか、ずっとやってきたんだからできて当たり前だろうがというような思いで、どちらかと言うと教えを乞う姿勢ではなくて、学ばせていただくという気持ちが全くなかった」と、その話をとおして教えていただいたような気がしました。そして、「これからは、Aさんのことを師匠として頂いて、ご指導いただく」という心持ちにならせていただきました。

それで、すぐに行動しようと思ひまして、その日の夜の練習からAさんを師匠として頂いていきました。そうやって2、3日していくと、

Aさんの対応が変わっていることに気付くんですね。今までちょっとぶっきらぼうに教えられていたり、「そんなこともできないのか」というような厳しく突き放された指導だったんですけども、とつても分かりやすくなって、丁寧に、本当に親切に教えてくださいますし、自分のことを気遣ってくださるようになったんです。

私はこのことをとてもうれしく思いまして、

その師匠不在の話をしてくださった先生に、「Aさんを師匠として頂きましたら、教え方も分かりやすくなって、本当に自分自身が助かるようになりました。ありがとうございます」と報告をしに行きました。すると先生が、「あなたは素直だねえ。本当にやったのかい？」というような感じで、「話はしたけど本当にするとは思

わなかった」みたいなことを言われまして、ちょっと恥ずかしいという思いでしたけど、また続けて先生が、「あなたの良さは、その素直さかもしれないなあ」というふうに言ってくださいました。「そうか。素直ということもいいことなんだなあ」と思いまして、このまま素直でいいよということを中心に掛けるようになりました。

いかがでしたか？

最初はAさんのことが嫌になっていた三好さんでしたが、信頼している金光教の先生の言葉により、心がすっきりと改まり、Aさんと良い関係を築くことができました。

信心によって心の持ち方が変わり、相手の心に寄り添うことができる。私たちの日常でも、

こちらの心の持ち方が変われば周りの状況が変わっていくことがたくさんあるように思います。

三好さんは、人に寄り添い、素直に何でも喜んでさせていただけようと日々願う中で、何より神様が自分に寄り添ってくださっていることを実感できると言います。

私たちも素直な改まりができるように、自分の心を大切にして毎日を過ごしていきたいですね。

《もう一度聞きたいあの話》

「ゆるやかに、伸びやかに」

広島県・吉舎教会 きさ 井上睦弘 いのうえむつひろ

ある時、私の奉仕している金光教の教会に家族4人がお参りしてきました。その帰りのこと。父親と6歳になる女の子は先に自動車に乗り込みましたが、3歳になる下の子は、まだ玄関で懸命に靴と格闘していました。お姉ちゃんに追い付こうとして焦れば焦るほど、うまく履けません。そんなわが子を母親は、せかすでもなく手伝うでもなく、ただほほ笑みを浮かべながら、そばに立ってジッと待っているのです。私はその母親のしぐさに、ほのぼのとしたぬくもりを感じました。そしてその子が、親の大きな愛情

に包まれて、伸びやかに育っていくことを確信したのでした。

そういえば、花壇の草花の世話をする時には、伸びてきた芽を、もつと早く伸びよと言って引張るようなことはしません。添え木をしたり、水や肥やしを施して育ちやすい環境作りをし、あとは気長に大きくなるのをジッと待ちます。ところが子育てとなると、子どもの自然な成長を待ちきれなくなり、焦るあまり、ようやく出たばかりの芽を無理やり引張ってちぎってしまふことさえあるようです。

草花を育てる時と同じように、親は、子どもの命が育つお手伝いをしているに過ぎません。子どもをどうするかということより、むしろ自分分は子どもに対して良い親になっているだろう

かと、常に自分自身のあり方を問うていく姿勢が大切ではないでしょうか。私がこのことに初めて気付いたのは、長女の幸子が産まれる時のことでした。

私は、かねてから男の子が欲しいと思っていましたので、妻の妊娠が分かったその日から、「どうぞ男の子が産まれますように」と神様にお願いしておりました。今思い返せば、すでに妊娠3カ月、性別はすでに決まっているはずなのですが、私は何の疑問もなく、男の子の誕生を願いつけていたのです。

7カ月目の定期検診では、胎児の発育が遅れているという診断の結果でした。それを妻から聞くなり、私は子どもの健康のことが心配でたまらなくなり、「どうぞ元気な子どもが生まれ

ますように」と神様にお願いするようになりました。

そしていよいよ陣痛が始まり、妻は分娩室に入っていました。喜びと不安が交錯する中で、私は必死で神様に祈りました。祈りながら、人間が命のことに対していかに無力であるかをしみじみ思い知ったのでした。その時ふと、自分がとんでもない間違いをしているような気がしました。私はこれまで子どもについて、様々なことを神様をお願いしてきたが、生まれてくる子どもを中心に考えず、自分の都合や身勝手な思いを神様に押し付けていただけではなかったか。そもそも神様がお授けくださる新しい命に条件を付けるなど、おこがましい限りであった。

そのことに気付いた時、「神様、どうぞ親と

して、無条件にその子を受け取らせてください。

生まれてくる子の良き親にならせてください」

という願いが、沸々と湧いてきたのです。

その後今に至るまで、いろいろなことがありましたが、その都度、「どうすることが、この子が育つお手伝いになるのでしょうか」と神様に問い掛けながら、子どもと共に過ごしてまいりました。

幸子が小学校2年生の時、アスレチックゲームというおもちゃを買ってやったことがありました。このゲームには10段階くらいの高所があり、段階を追って運動感覚が要求されてきます。ところが幸子は何日たっても第1段階さえクリアできないでいるのです。

その幸子が、ある日不思議そうに問い掛けて

きました。

「お父ちゃん、リエちゃんはアスレチックゲームするのが初めてなのに、3、4回で10段階まですぐにできるようになったんよ。私は、どうしてできないのじゃろう」と聞くのです。

「あのなあ、幸ちゃん。草や木と同じで、人間にもたくさん芽があるんよ。幸ちゃんの間にも、運動の芽や国語、算数の芽や、まだ誰も気付いておらん芽もある。幸ちゃんは、国語や算数の芽はどんどん伸びてきているが、運動の芽はまだ伸びてきておらんだけのことよ。人前に出て恥ずかしがらん社交性という芽も、今はまだ隠れている。でも、いずれ伸びてくる。まだ伸びておらんだけだから、隠れている芽を嫌っちゃいけないぞ。嫌わずに仲良しになっ

て、どんどん伸びてもらえりやええなあ」

子どもの育つお手伝いと思えるからこそ、そんな言葉がスツと出たのでしょう。他人と比べて劣等感や優越感を助長するような言い方にならなかったことがありがたく、神様にお礼申し上げたことでした。

私たちは神様に大きく包まれて生きています。私は神様のような広々とした心を持って、その子その子に与えられた命を認め、素晴らしい芽が、それぞれのペースで伸びやかに育つことを願っていききたいと思います。良い親になるとは、人間の狭い見にとらわれてあくせくすることなく、わが心をどこまでも神様のお心に近付けるよう努めることに他ならないのだと、子どもの成長を通して思わされているのです。



金光教本部 ラジオ放送係

住所 〒719-0111
岡山県浅口市金光町大谷320

電話 0865-42-6453

FAX 0865-42-2114

メール w-master@konkokyo.or.jp

KONKOKYO

朝日放送 日曜日 あさ5時40分

放送センターHP
「ここで聴く
おはなし」



「ここで
聴くおはなし
Podcast」



放送後の音声はWebサイトやPodcastで聴くことができます。